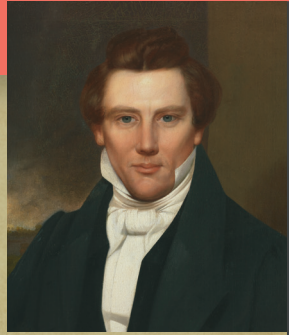


ジョセフ・スミスのおかげで  
黙示録について分かる事柄



ジョセフ・スミスを通して明らかにされたさらなる光があるため、わたしたちは、キリストとキリストの聖徒が悪魔と世に対して勝利を収めるという啓示のテーマをもっとよく理解することができます。



- 1 ヨハネ、勝利を見る。
- 2 ヨハネ、戦いを見る。
- 3 ヨハネ、飢饉を見る。
- 4 ヨハネ、死を見る。
- 5 ヨハネ、キリストの殉教を見る。

黙示 5 - 8 章  
教義と聖約 77:6 - 7, 12

7つの封印は7つの期間を表す。最後の二つはわたしたちの時代以降を指している。

6

7

第7の封印が解かれた後、キリストは戻ってこられ、悪人は滅ぼされる。

地球は清められ、福千年が始まる (教義と聖約 88:89 - 110 参照)。

黙示 7:1 - 8  
教義と聖約 77:8 - 11

4人の天使とイスラエルの部族から印を押された14万4,000人の僕が、終わりの時における回復と集合の業に関わる。

黙示 20:2  
1ニーファイ 22:26

サタンは「[キリストの]民の義のために」福千年の間縛られる。

復活

黙示 12:4, 7 - 9  
教義と聖約 29:36 - 37;  
76:25 - 29

ヨハネの示現では、地上で行われている神の軍勢とサタンの軍勢の間の戦いを強調するために、前世における天での戦いのことが簡潔に示されている。

黙示 20:5  
教義と聖約 76:81 - 85

星の栄えの王国を受け継ぐ者は、福千年の後まで復活しない。

「地球は火によるかのごとくに過ぎ去るであろう。」 (教義と聖約 43:32 - 33 参照)

「また、聖なる都、新しいエルサレムが、……神のもとを出て、天から下って来るのを見た。」 (黙示 21:2) これはエノクの町が戻ってくることを述べたものである。(モーセ 7:63 参照)

黙示 20:11 - 13

教義と聖約 128:6 - 7

人が行いに応じて裁かれる基となる (地上と天にある) 数々の書物には、死者の救いに関する記録も含まれる。

黙示 17:5

1ニーファイ 13:6; 14:10

「大いなるバビロン、淫婦どもと地の憎むべきものらの母」とヨハネが述べているのは、悪魔の教会のことである。悪魔の教会には、イエス・キリストとその福音とイエス・キリストの教会に反対する全ての勢力が含まれる。というのは、教会はただ二つ、神の小羊の教会と悪魔の教会だけだからである。

スミスは説明しています。このように預言者は、ヨハネの示現には象徴的なものがある一方で、少なくとも記述の一部は文字どおりのものであることを明らかにしました。<sup>6</sup> また、このようなものに関する原則についても説明しました。

「いかなる種類のものであれ、神がある象徴的なもの、獣、形あるものを示現として授けられる場合、神は常にその示現の意味について啓示なり解釈なりを与える責任を負っておられる。そうでなければ、わたしたちはそれをどう考えるかに関して責任を問われることはない。したがって、神がその事柄について啓示なり解釈なりを授けておられないならば、その示現や象徴の意味を知らないために罰の定めを受けるのではないだろうか、などと恐れる必要はまったくないのである。」<sup>7</sup>

神秘的な示現の詳細の全てについて解釈を知ることは、わたしたちの聖文研究において重要なことではありません。預言者たちの比喩的な言葉遣いに見られる不可解な事柄は、神の奥義と同じではありません。神の奥義は、「悔い改めて信仰を働かせ、善い行いをし、絶えず祈り続ける」人に与えられます (アルマ 26:22)。

預言者ジョセフ・スミスは、黙示録の神秘性をなくすことによって、イエス・キリストの福音のさらに重要な部分から注意をそらしかねないものを取り去りました。言うまでもなく、ヨハネの示現は末日について重要な情報を与えています。背教と回復、イエス・キリストの再臨、悪魔に対する主の勝利、キリストの福千年の統治、それに復活と最後の裁きがそれです。これらの事柄は、真理を見だし、主の御心みこころに従おうとするときに助けとなります。しかし、その示現で述べられているものに関する特定の解釈にこだわると、わたしたちは最も重要なことを

見落とすかもしれません。<sup>8</sup>

黙示録を研究し、預言者ジョセフ・スミスを通して当てられたすばらしい光を活用するとき、壮大な世界の歴史の中でわたしたちがどこにいるのか、また御自身の子供たちに対する神の関わりの中でどのような立場にあるのかを理解することができます。このことが分かると、イエス・キリストについて個人の証を持つことと、末日における主の業に献身的に参加することの大切さを理解することができます。そうすることで、世に打ち勝ち、キリストとともに御父から全てを受け継ぐことができるのです (黙示 3:21; 21:7 参照)。■

注

1. 例えば、ジョセフ・スミスは黙示 2:1 や黙示 6:14 の一部を変更している。
2. 例えば、ジョセフ・スミスの黙示 1:7 の翻訳には次のように書かれている。「見よ、主は御父の栄光をまとい、教知れない王国の聖徒たちとともに雲の中を来られる。すべての人の目が主を見る。そして、主を刺し通した者たちと地のすべての部族は、主のゆえに嘆き悲しむ。」ジョセフ・スミスによって追加された言葉 (イタリック体) は、この節を、キリストの再臨に関する他の聖文の教えと関連づけている。例えば、マタイ 16:27 (「父の栄光」とユダ 1:14 (「無数の聖徒たち」) がそれである。
3. Bible Dictionary, "Revelation of John" の項
4. History of the Church, 第5巻, 342
5. もちろん、ジョセフ・スミスが知っていたように、7つの封印のうち最初の5つは過去の出来事を指すものである。しかし、この5つの封印は、人類の歴史の目的や終点に関するテーマを強調するのに役立つ、ヨハネの時代をはるかに超えた再臨に先立つ出来事で終わっている。
6. この際立った例において、生き物自体は文字どおりのものであって、4つの個々の生き物を表しているが、これらに関するヨハネの記述には、その外見よりもむしろ抽象的な特質を表す象徴的な要素 (多くの目と翼) が含まれている (黙示 4:6 - 8; 教義と聖約 77:4 参照)。
7. History of the Church, 第5巻, 343
8. これは特に宣教師に当てはまると、ジョセフ・スミスが感じていたことは明らかで、こう述べている。「おお、イスラエルの長老たちよ、わたしの声を聞いてください。教えを説くために世界に遣わされるとき、語るべき事柄を告げてください。次のように説き、声高らかに叫んでください。『悔い改めなさい。天の王国は近づいているからである。悔い改めて福音を信じなさい。』第一の原則を宣言し、奥義には触れないでください。打ち負かされないためです。獣の示現や自分が理解していない事柄に決して手を出してはなりません。」 (History of the Church, 第5巻, 344)